

# Arcserve Cyber Resilient Storage シリーズ

2026 年 4 月  
Arcserve Japan

Rev.1.4

# 依然として高いランサムウェアの脅威

順位	「組織」向け脅威
1	ランサム攻撃による被害
2	サプライチェーンや委託先を狙った攻撃
3	AIの利用をめぐるサイバーリスク
4	システムの脆弱性を突いた攻撃
5	機密情報等を狙った標的型攻撃
6	地政学的リスクに起因するサイバー攻撃
7	内部不正による情報漏えい等
8	リモートワーク等の環境や仕組みを狙った攻撃
9	DDoS攻撃（分散型サービス妨害攻撃）
10	ビジネスメール詐欺

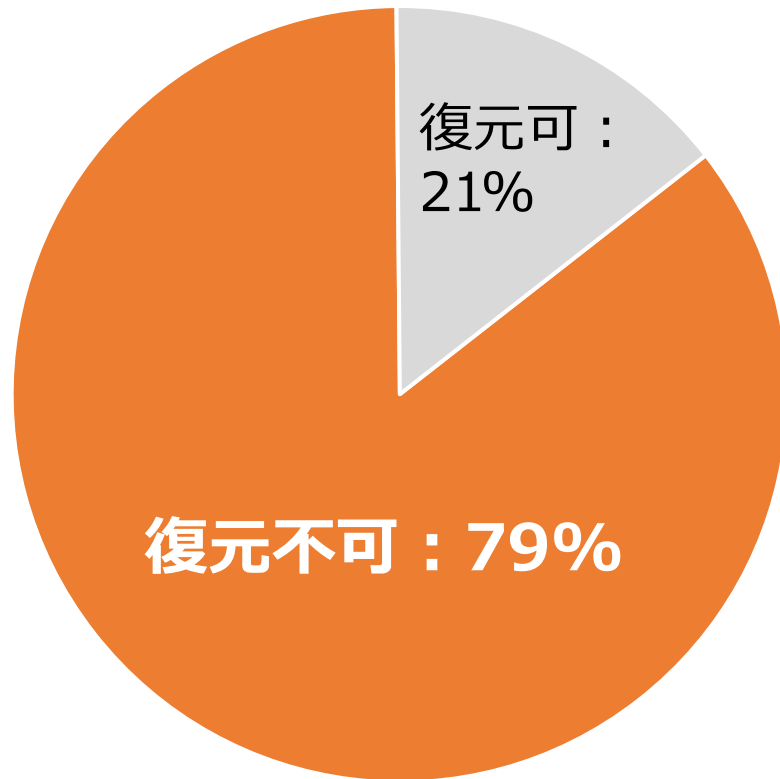


6年連続1位

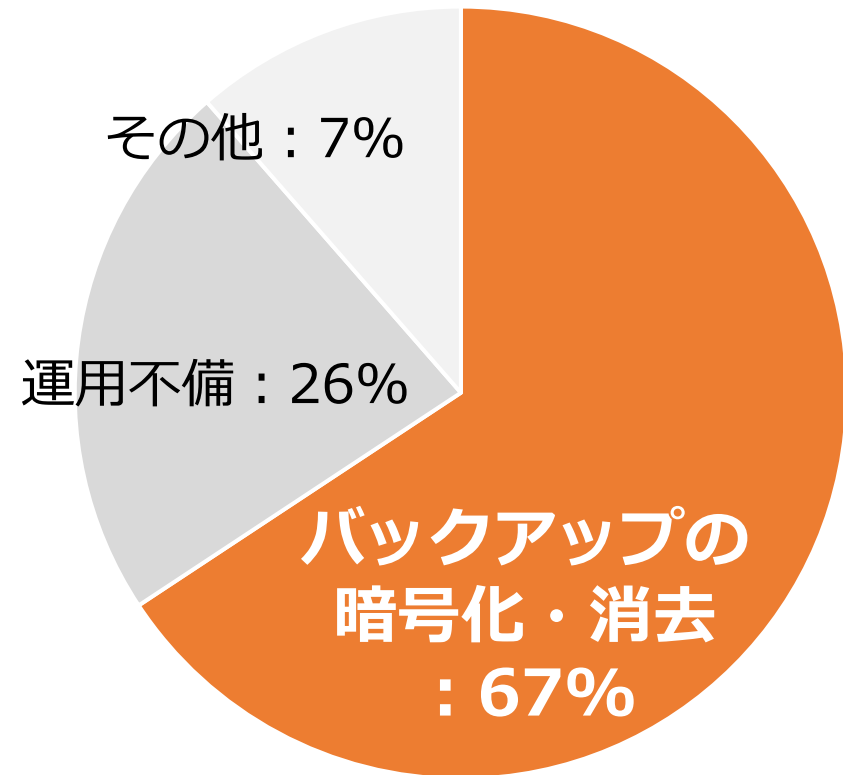
(出典) IPA 独立行政法人情報推進機構セキュリティセンター「[情報セキュリティ10大脅威 2026](#)」より引用、一部省略

# ランサムウェア攻撃ではバックアップデータが狙われる！

バックアップからの復元可否

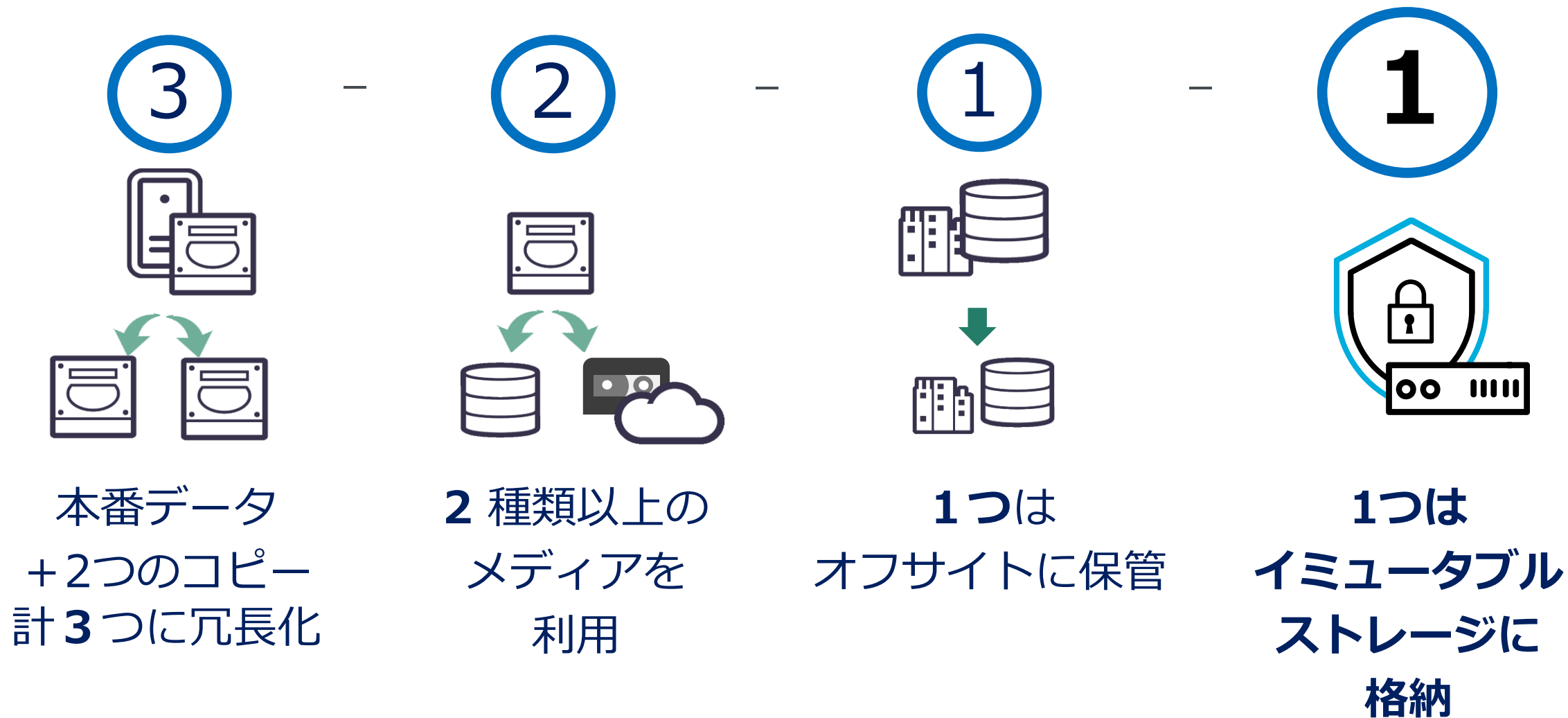


バックアップから復元できなかった理由



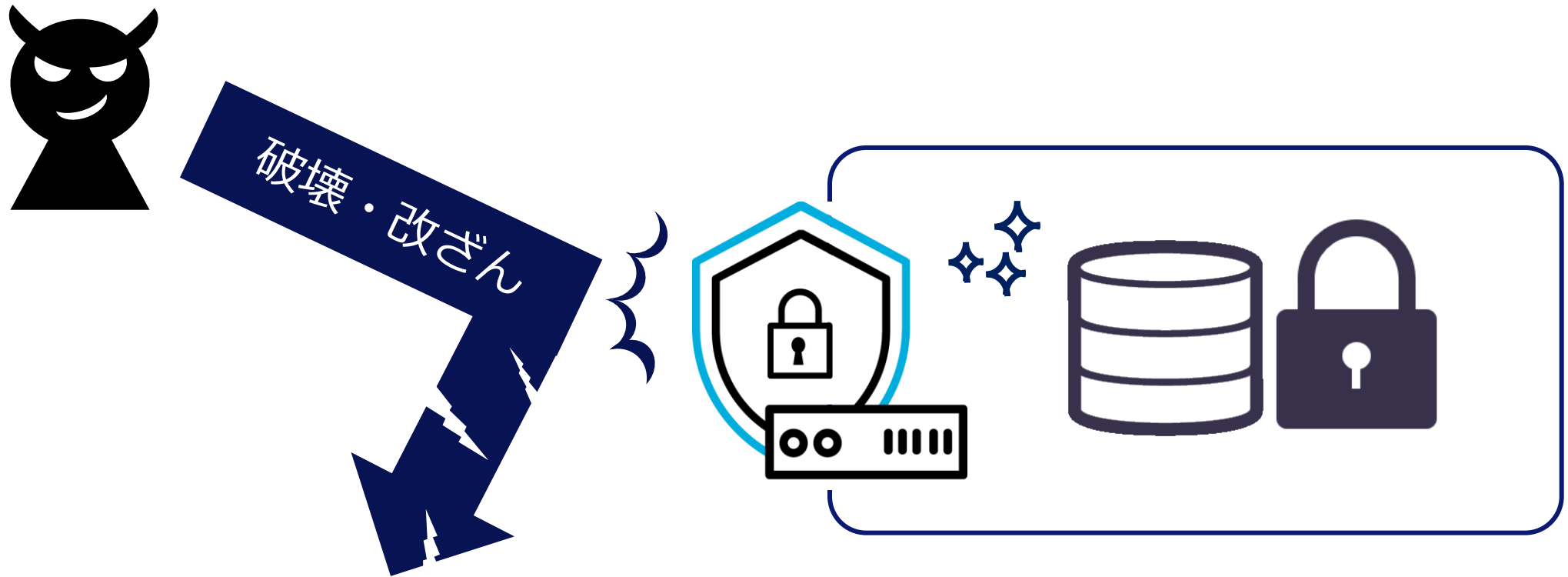
(出典) 警察庁「[令和7年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について \(令和8年3月\)](#)」を Arcserve にて編集

# 3-2-1-1 バックアップ戦略



# Arcserve Cyber Resilient Storage (CRS) とは？

ランサムウェア攻撃からバックアップデータを守るイミュータブル（不変）ストレージです  
サイバー攻撃への耐性（Cyber Resilience）を高めることができます



# Arcserve Cyber Resilient Storage シリーズ

Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ (RPS) データストアのデスティネーションとしてクラウドとオンプレミスの2種類のイミュータブルストレージを提供します



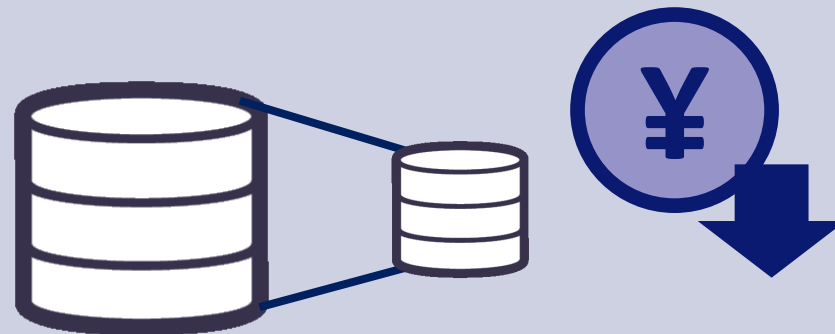
# Arcserve Cyber Resilient Storage シリーズの強み

簡単



いつもの  
Arcserve UDP コンソールで  
簡単リストア\*1

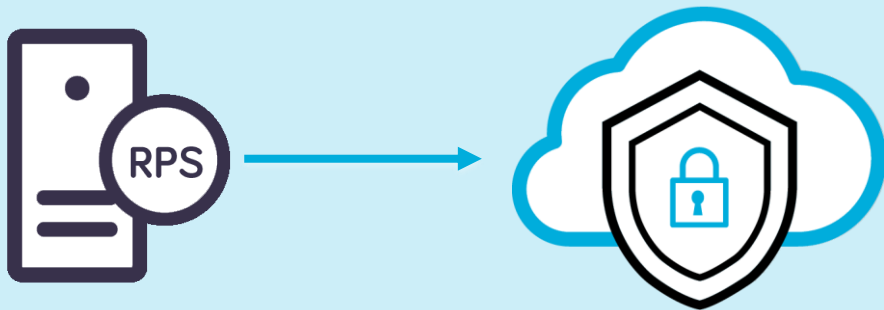
節約



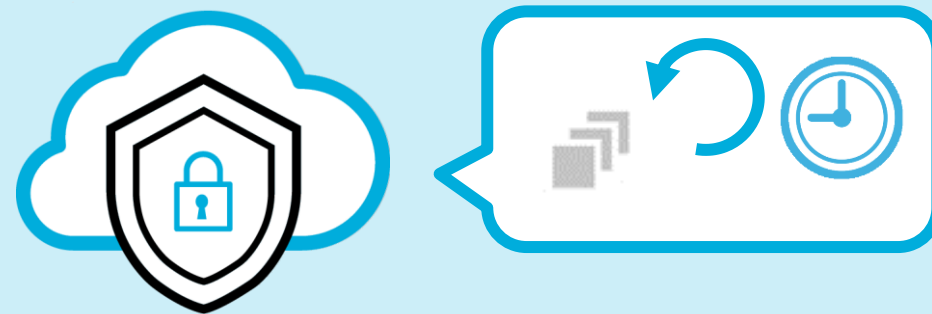
継続増分/圧縮/重複排除で  
転送効率を向上し  
データをたくさん詰め込める

# CRS シリーズ - ランサムウェア攻撃からの復旧シナリオ

**1** バックアップ データが CRS に書き込まれます。



**2** スケジュールに従い、CRS 内で自動的にスナップショットが取得されます。



**3** 攻撃者が RPS 内のデータを破壊します。しかし、CRS には手が出せません。



**4** スナップショットから、健全な時点のデータストアをインポートできます。



# Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage (クラウド CRS)





# クラウド CRS のスナップショットのスケジュール設定画面

Arcserve クラウド サイバーレジリエント データストアの作成

地域

バケット名

エンドポイント

保持ポリシー

フレキシブル保持 (ガバナンスモード)  
特定の IAM 権限を持つユーザは、保存期間中に保護されているオブジェクトバージョンを上書きまたは削除できます。

コンプライアンス保持 (コンプライアンスモード)  
保持期間中、保護されたオブジェクトバージョンをユーザーが上書きまたは削除することはできません。

イミュータブル スナップショット スケジュールの頻度

毎日

スナップショット時刻  :

保存期間 (日)

毎週

毎月

東京リージョン  
を選択

[コンプライアンス保持]  
で、管理者でもスナップ  
ショットを削除できない

スナップショットの  
取得頻度は  
日次/週次/月次の  
簡単設定



# クラウド CRS のスナップショットの選択画面

リストア用のイミュータブル スナップショットのインポート

イミュータブル スナップショットの選択 (ステップ 1 / 3)

作成されたスナップショット	アドホック ジョブ	日次ジョブ	週次ジョブ	月次ジョブ
3	1	1	1	0

リストア元のイミュータブル スナップショットを選択

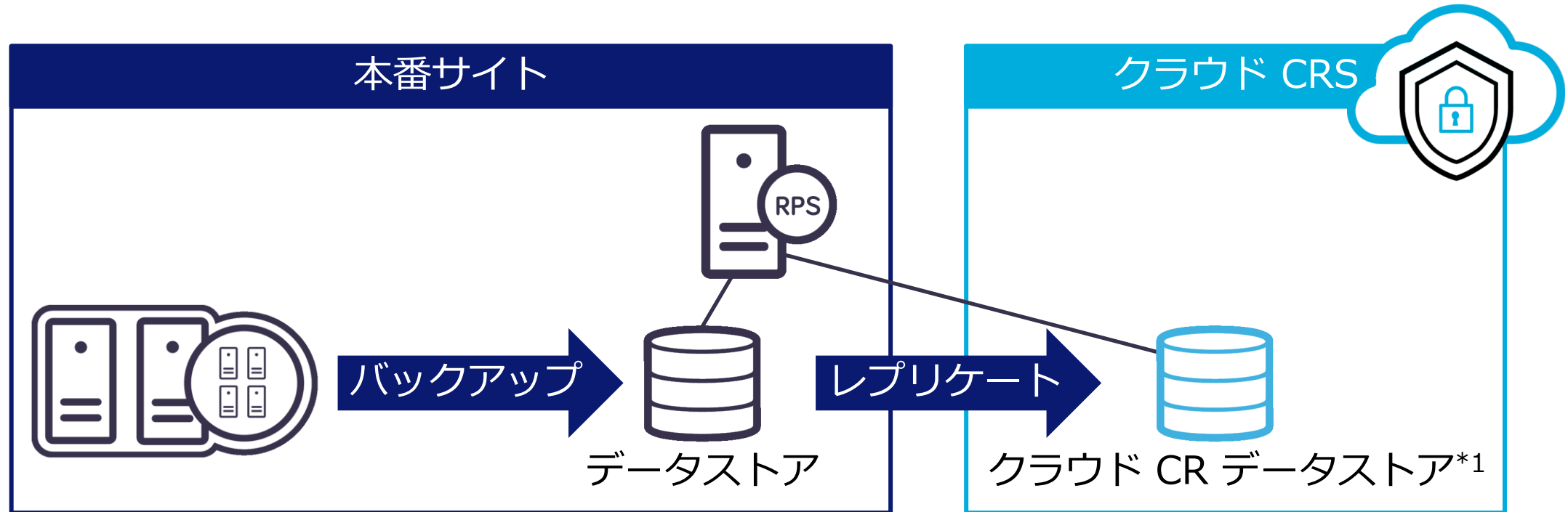
すべてのイミュータブル スナップショット  新しい順に並べ替え

スナップショット (2025/07/24 17:40:12) 108.54 GB   あと 35 日で有効期限が切れます	<a href="#">ログの表示</a>
スナップショット (2025/07/24 17:38:19) 108.54 GB   あと 2 日で有効期限が切れます	<a href="#">ログの表示</a>
スナップショット (2025/07/24 0:00:11) 108.54 GB   あと 7 日で有効期限が切れます	<a href="#">ログの表示</a>

リストア時には  
任意のスナップショットを  
選択してインポートできる



# クラウド CRS の構成例 : Disk to Disk to Cloud



- ✔ 既存環境に簡単に災害対策/ランサムウェア対策を追加
- ✔ 3-2-1-1 バックアップ ストラテジーに適合

\*1 クラウド サイバー レジリエント データストアの略



# クラウド CRS の価格

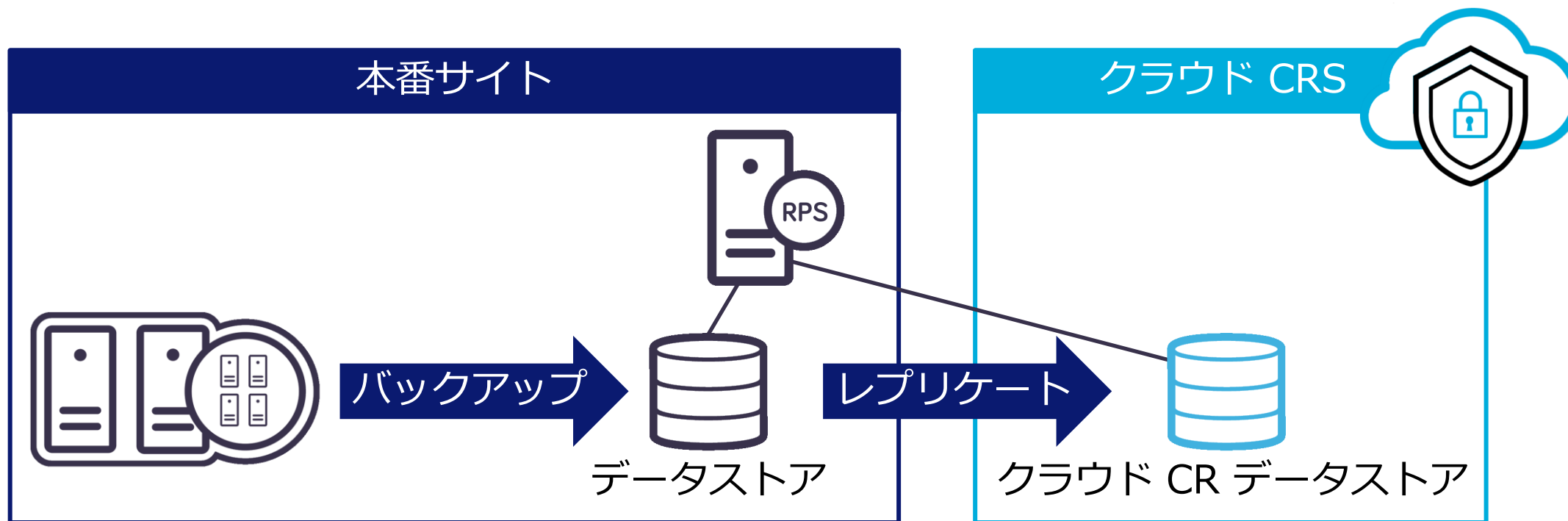
月額換算 **¥5,000**（税別）でランサムウェア対策を強化できます！！

サービス名	価格（税別）	価格（税込）
Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage （クラウド CRS） 1 TB <sup>*1</sup> - 1年サブスクリプション <sup>*2</sup>	<b>¥60,000</b>	<b>¥66,000</b>
Arcserve Cloud Storage <sup>*3</sup> 1 TB <sup>*1</sup> - 1年サブスクリプション <sup>*2</sup>	<b>¥36,000</b>	<b>¥39,600</b>

※ クラウド CRS および Arcserve Cloud Storage からのエグレス課金はありません。  
※ バックアップ対象に対して Arcserve UDP または Arcserve UDP Appliance が必要です。

- \*1 保存するバックアップ データ（スナップショット含む）容量に対して課金されます。
- \*2 5年サブスクリプションもあります。詳しくは[購入方法と製品価格表](#)をご覧ください。
- \*3 クラウド CRS から不変スナップショット機能を省いたサービスです。

# クラウド CRS の購入例



## 購入するサービス項目例

- 「Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage – 1 TB」 x5

合計 5 TB まで  
クラウド CRS を使用できます

# Arcserve Cyber Resilient Storage (CRS)

※ 本セクションは Arcserve CRS 1.6 を  
前提としています。



# CRS データストアの作成画面



Arcserve サイバー レジリエント データストアの作成

サイバー レジリエント ストレージ アカウント	crsaccount		
プール名	crspool		
ファイルシステム	crsfs1	ポート番号	5000

イミュータブル スナップショット スケジュールの頻度

毎日

スナップショット時刻: 00 : 00

保存期間 (日): 7

毎週

実行予定日: 金曜日

スナップショット時刻: 02 : 00

保存期間 (週): 5

毎月

開始日/週: 日 : 1

スナップショット時刻: 04 : 00

保存期間 (月): 12

CRS にアクセスする  
情報を設定

スナップショットの作成  
スケジュールは、日次、  
週次、月次でそれぞれ  
指定できる



# CRS のスナップショットの表示画面

イミュータブル スナップショット

ソース データストア crsds1

作成されたスナップシ...	アドホック ジョブ	日次ジョブ	週次ジョブ	月次ジョブ
3	0	1	1	1

リストア元のイミュータブル スナップショットを選択

スナップショット (2025/07/24 0:01:40) 939.75 KB   あと 3 日で有効期限が切れます	<a href="#">ログの表示</a>
スナップショット (2025/06/30 10:30:13) 172.02 GB   あと 11 日で有効期限が切れます	<a href="#">ログの表示</a>
スナップショット (2025/06/30 1:00:44) 98.38 MB   あと 341 日で有効期限が切れます	<a href="#">ログの表示</a>

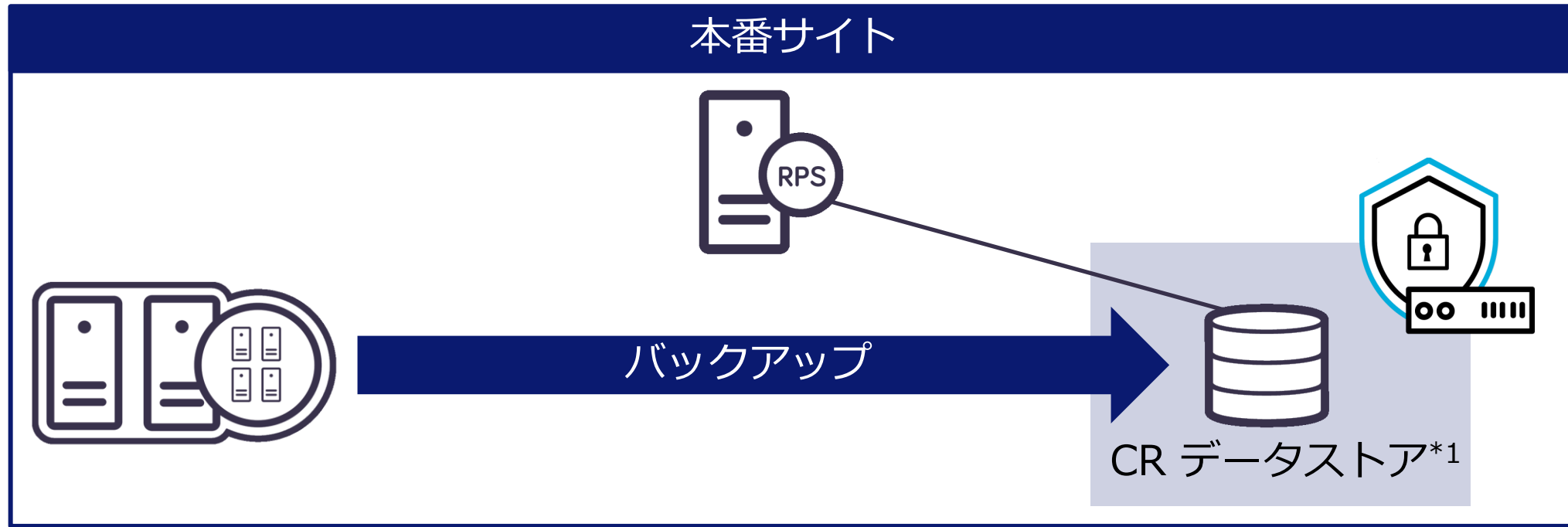
ヘルプ

作成済みの  
スナップショットを  
一覧表示

一覧から選択したスナップ  
ショットをインポート  
してリストアを実施



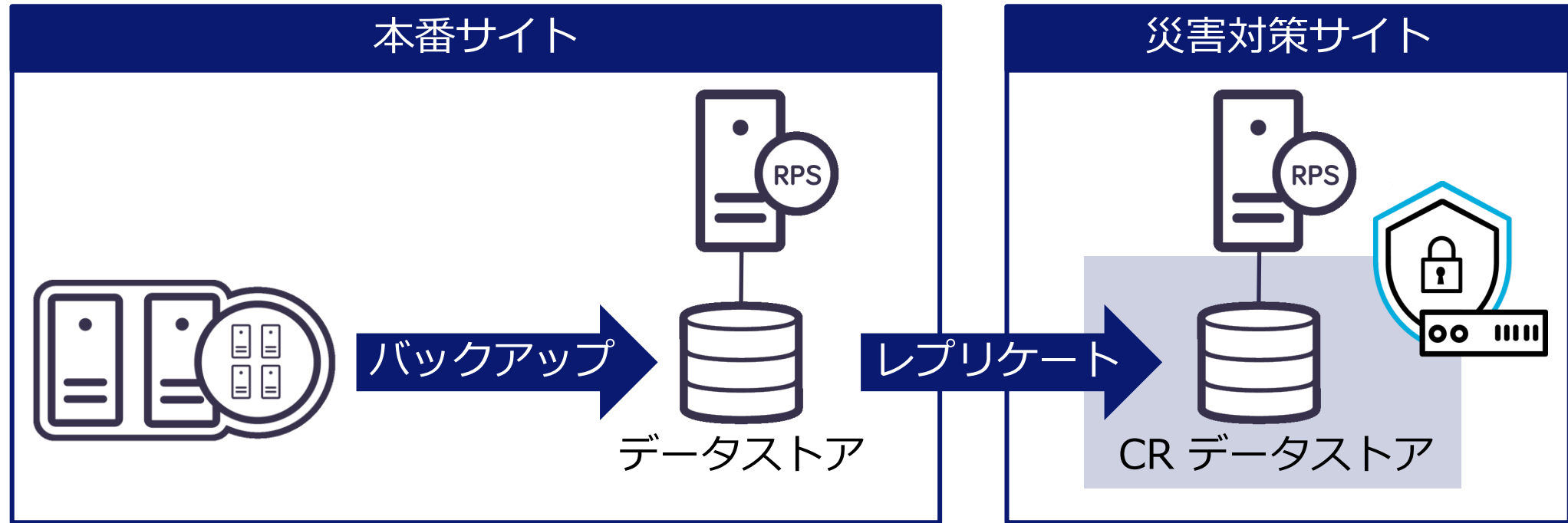
# CRS の構成例①：一次バックアップをランサムウェア対策



\*1 サイバー レジリエント データストアの略



## CRS の構成例②：ランサムウェア対策と災害対策を両立



✔ 3-2-1-1 バックアップ ストラテジーに適合

# CRS の構成要素



【CRS ソフトウェア \*1】

Arcserve が提供

【サーバ ハードウェア】

お客様が調達

【CRS サーバ】



\*1 OS も含まれます

# CRS の価格



月額換算 **¥3,000**（税別）でランサムウェア対策を強化できます！！

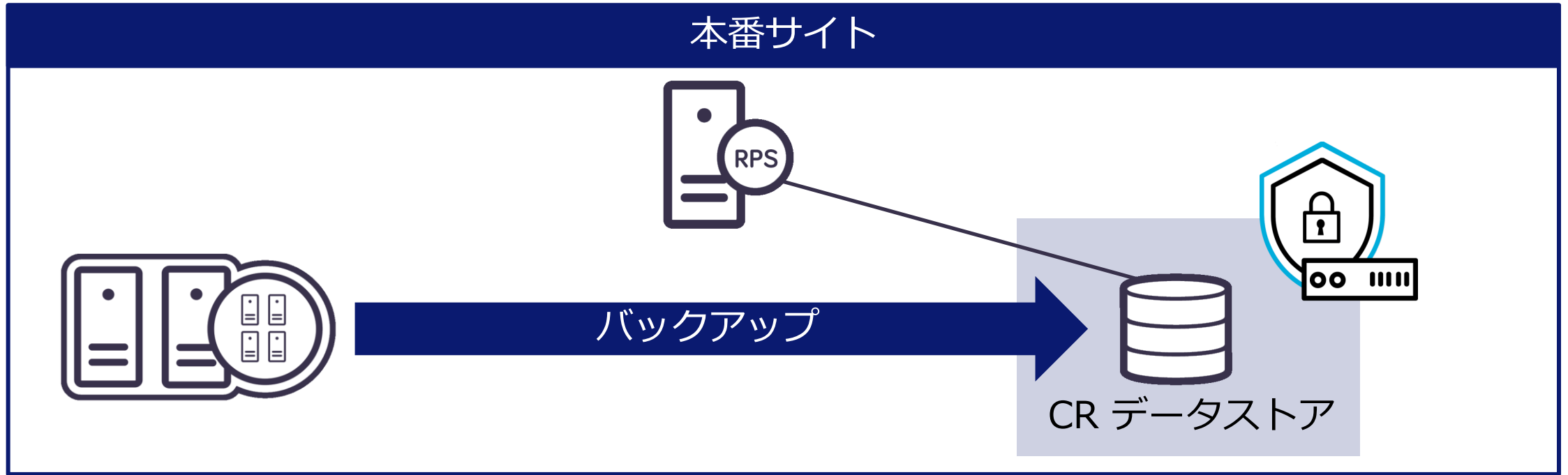
サービス名	価格（税別）	価格（税込）
Arcserve Cyber Resilient Storage 1 TB* <sup>1</sup> – 1年サブスクリプション* <sup>2</sup>	<b>¥36,000</b>	<b>¥39,600</b>

※ バックアップ対象に対して Arcserve UDP または Arcserve UDP Appliance が必要です。

\*1 保存するバックアップ データ（スナップショット含む）容量に対して課金されます。

\*2 3年/5年サブスクリプションもあります。詳しくは[購入方法と製品価格表](#)をご覧ください。

# CRS の購入例



## 購入するライセンス項目例

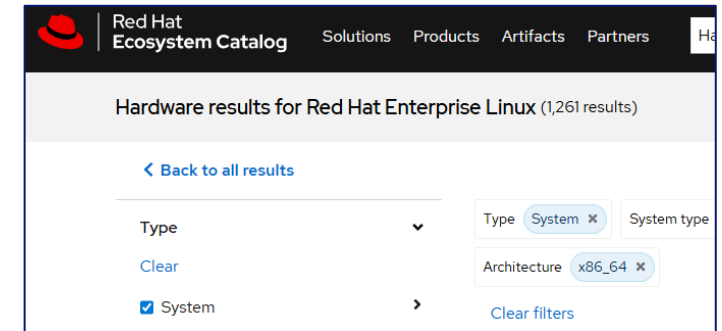
- ・ 「Arcserve Cyber Resilient Storage – 1 TB」 x5

合計 5 TB まで  
CRS を使用できます



# CRS ハードウェア要件

- [Red Hat Ecosystem Catalog](#) の認定サーバ ハードウェア (物理マシン)
  - ✓ Certified for : Red Hat Enterprise Linux 9
  - ✓ Architecture : x86\_64
  - ✓ System type : Server
- CPU、メモリ要件はデータ容量に依存 (詳細は後述)
- LAN ポート RJ45、SFP/SFP+/SFP28 \*1 ([Red Hat Enterprise Linux 9 と互換性](#) のあるもの)
- ディスク
  - ✓ OS 用 : HW RAID-1 構成を推奨 (容量 100 GB 以上)
  - ✓ データ用 : RAIDによる冗長化を設定。RAID 構成は以下から選択 (詳細は次スライド)
    - “HW RAID” … RAID コントローラで 任意の RAID 構成を設定
    - “CRS RAID” … 非RAID モード (HBAモード) によって CRS OS から RAID 構成を設定



\*1 SFP/SFP+/SFP28 は CRS 1.5 以降でサポート



# HW RAID / CRS RAID 構成での推奨ハードウェア スペック

## ● データ領域 容量別構成 (例)

使用可能容量*1	実効容量*2	ディスク容量	データ用 ディスク数	推奨 RAM	合計 CPU コア数
1.9 TB	2 TB	1 TB	3	6 GB	2 コア以上
3.8 TB	4 TB	2 TB	3	8 GB	2 コア以上
7.6 TB	8 TB	4 TB	3	10 GB	2 コア以上
15.2 TB	16 TB	8 TB	3	16 GB	4 コア以上
22.8 TB	24 TB	12 TB	3	24 GB	4 コア以上
30.4 TB	32 TB	16 TB	3	28 GB	4 コア以上
38.0 TB	40 TB	20 TB	3	34 GB	4 コア以上
45.6 TB	48 TB	12 TB	5	40 GB	5 コア以上
60.8 TB	64 TB	16 TB	5	52 GB	7 コア以上
68.4 TB	72 TB	18 TB	5	58 GB	7 コア以上
91.2 TB	96 TB	16 TB	7	74 GB	10 コア以上

\*1 実効容量の内、5% の空き容量を差し引いたものが使用可能容量です。

\*2 本構成例はデータ領域を RAID5 相当としており、ディスク 1台分がパリティに使われます。

※この表は2026年4月1日時点のものです。最新の推奨値は[動作要件](#)をご覧ください。



## ① CRS RAID (ソフトウェア RAID) の拡張

### CRS データ領域の可用性と耐障害性の向上が可能に

- **拡張RAID (ダブル / トリプル) パリティ ディスクのサポート**
  - 複数ディスクの同時障害に対応

パリティディスク	最小ディスク数	フォールトトレランス
シングル	3	1 ディスク障害
ダブル	4	2つのディスク障害
トリプル	5	3つのディスク障害

- **ホットスペア ディスクのサポート**

- ディスクが壊れた場合に自動でスペアディスクが同期してRAID構成を復旧
- ホットスペア ディスクは最大15台まで追加可能



## ② ネットワーク機能の拡張

### ● ジャンボフレームのサポート

- ネットワーク アダプタの MTU を最大 9000 byte フレームに設定可能
- 転送効率の向上が可能

### ● ネットワーク アダプタのサポート範囲拡張

- SFP/SFP+/SFP28 の NIC をサポート対象として追加
- Mellanox、Broadcom、Intel などの新しい NIC を追加



## ① 閉域網（ダークサイト）のサポート

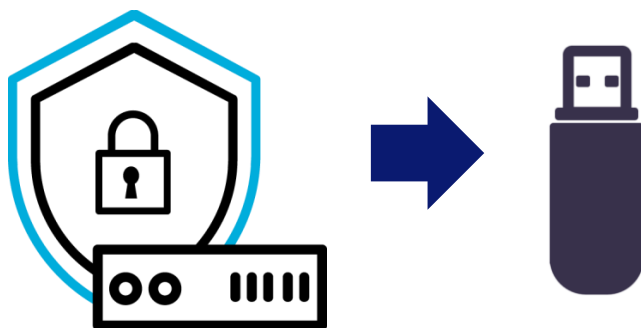
インターネット接続できない閉域網（ダークサイト）環境に対応するため以下の機能が追加されました。

### 1. オフライン アップデート



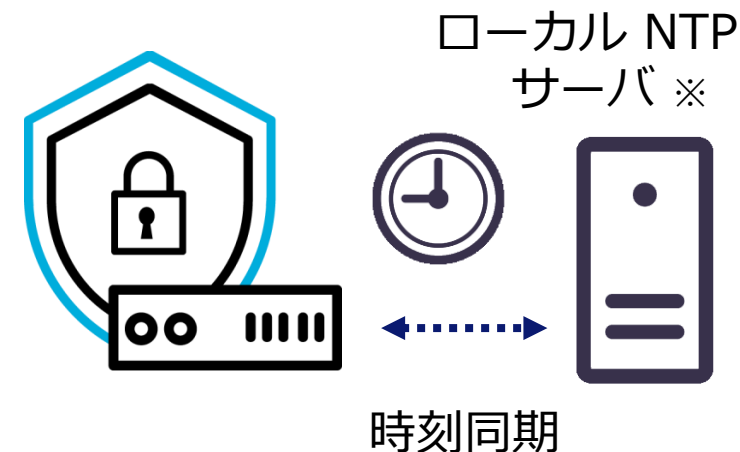
物理メディアを使って  
CRS をバージョン アップ！

### 2. サポートバンドルの オフライン エクスポート



Arcserve サポートに送るログ  
（サポートバンドル）は、一度  
USB メモリにエクスポート！

### 3. ローカル NTP サーバ のサポート



※ Network Time Security (NTS)  
対応の NTP サーバをサポート



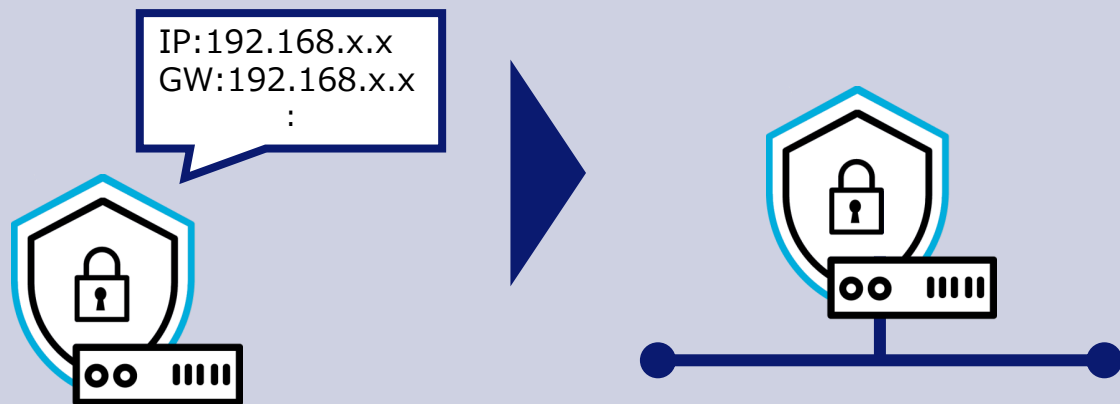
## ② 高度なネットワークプロファイル管理

ネットワークプロファイルの管理機能により、ネットワーク接続の切り替えや管理が簡単になりました。

### 活用ケース1：本番環境設置前に設定しておく

1. インストール時に、本番ネットワーク用プロファイルを作成

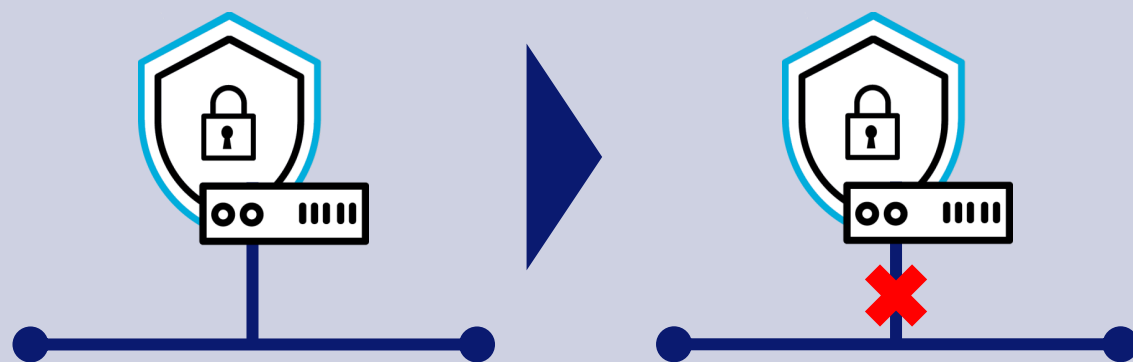
2. 本番設置時、プロファイルの有効化で、すぐにネットワークに接続



### 活用ケース2：異常時のネットワーク遮断

通常運用時：  
プロファイル **up**

ランサムウェア攻撃時：  
プロファイル **down** \*1

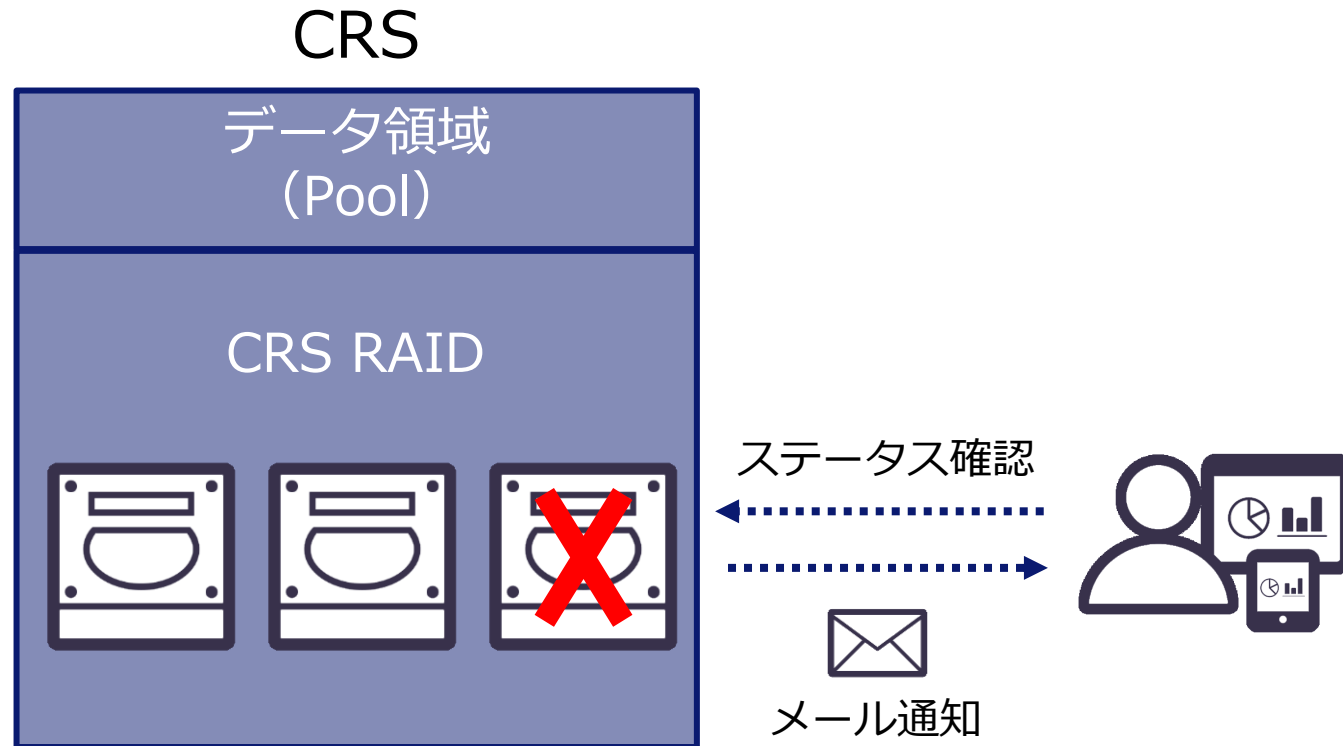


\*1 ネットワークの安全性を確認した後に、プロファイルを再度有効化出来ます。



## ③ SMART ディスク アラート

CRS RAID 利用環境における SMART (Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology) テレメトリを活用したストレージの監視機能が追加されました。



- 読み取り/書き込みエラー率などを継続的に監視
- ディスク障害が発生する前にハードウェアの劣化に関する早期警告を受信
- CRS のアラート機能を使い、管理者へのメール通知が可能

# Arcserve Cyber Resilient Storage Appliance 1000 シリーズ





# Arcserve CRS Appliance 1000 シリーズとは

Arcserve CRS をプリインストールしたイミュータブル ストレージ サーバ  
導入前のハードウェア選定の手間を省き、サポート窓口も一本化できます





# Arcserve CRS Appliance 1000 シリーズ メンテナンス内容

- 納品から**5年間**の使用権とメンテナンスが標準セット
- サポートへのお問い合わせはソフトウェア版と同じ窓口で対応
- ハードウェア故障には**オンサイト**（現地訪問）対応が可能  
（現地訪問は問題特定から4時間駆けつけ目標※）
- Arcserve CRS の**無償アップグレード**が可能 ※※

- ※ サービス拠点(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡)より30km圏内での目標となります。
- ※ サポートの受付/作業時間は平日9時～17時30分です。ハードウェア サポートの受付/作業時間を延長する「24時間/365日 ハードウェア サポート オプション」もあります。
- ※※ アップグレード作業はお客様にて実施いただきます。



# Arcserve CRS Appliance 1000 シリーズ ハードウェア仕様

	Arcserve CRS 1012	Arcserve CRS 1024	Arcserve CRS 1040	Arcserve CRS 1080
ストレージ容量 (RAID設定)	12 TB (RAID5)	24 TB (RAID5)	40 TB (RAID6)	80 TB (RAID6)
ハードディスクドライブ	4 TB SAS × 4	8 TB SAS × 4	4 TB SAS × 12	8 TB SAS × 12
ソリッドステートドライブ (システム領域)	256 GB SSD (RAID1)			
プロセッサ	Intel Xeon Silver 4310T, 10コア 20スレッド, 2.3 GHz		Intel Xeon Silver 4310T, 10コア 20スレッド, 2.3 GHz x 2	
RAM	32 GB		64 GB	
IPMI & ネットワークインターフェース	IPMI x 1 & 10 GbE (RJ45) x 2			
寸法 (H x W x D)	4.3 x 43.7 x 65cm (1U - 19" ラックマウントレール付)		8.9 x 43.7 x 64.7cm (2U - 19" ラックマウントレール付)	
重量	最大14.8kg		最大25.8kg	
電源ユニット	700/750W x 2 (リダンダント)		1000/1200W x 2 (リダンダント)	
消費電力 (起動時/アイドル時/高負荷時)	308W(311VA)/134W(138VA)/226W(228VA)		694W(698VA)/280W(284VA)/461W(464VA)	
電源定格	100v-240v AC 50/60Hz			



# Arcserve CRS Appliance 1000 シリーズの価格

製品名称	価格（税別）	価格（税込価格）
<b>本体製品</b>		
Arcserve CRS 1012 Appliance (12 TB モデル) – 5年サブスクリプション	<b>¥5,300,000</b>	<b>¥5,830,000</b>
Arcserve CRS 1024 Appliance (24 TB モデル) – 5年サブスクリプション	<b>¥7,600,000</b>	<b>¥8,360,000</b>
Arcserve CRS 1040 Appliance (40 TB モデル) – 5年サブスクリプション	<b>¥12,400,000</b>	<b>¥13,640,000</b>
Arcserve CRS 1080 Appliance (80 TB モデル) – 5年サブスクリプション	<b>¥19,900,000</b>	<b>¥21,890,000</b>

※ 別途、Arcserve UDP または Arcserve UDP Appliance が必要です。

※ 最新の価格表は[購入方法と製品価格表](#)をご覧ください。

# 追加オプション製品価格表

製品名称	価格（税別）	総額（税込価格）
<b>サポート オプション</b>		
Arcserve CRS Appliance - 24時間365日 ハードウェア サポート オプション (5年間・全モデル) *1	¥1,800,000	¥1,980,000
Arcserve CRS Appliance - 1ヶ月サブスクリプション (全モデル) *2	¥510,000	¥561,000
Arcserve CRS Appliance - 1012 HDD/SSD 返却不要オプション (5年間) *3	¥157,000	¥172,700
Arcserve CRS Appliance - 1024 HDD/SSD 返却不要オプション (5年間) *3	¥187,000	¥205,700
Arcserve CRS Appliance - 1040 HDD/SSD 返却不要オプション (5年間) *3	¥295,000	¥324,500
Arcserve CRS Appliance - 1080 HDD/SSD 返却不要オプション (5年間) *3	¥435,000	¥478,500

※ 最新の価格表は <https://www.arcserve.com/ja/licensing-options> でご確認ください。

\*1 弊社営業時間外の間合せ受付はハードウェアの問題に限ります。切り分け後にソフトウェアの問題だと判明した場合は翌営業日以降の対応になります。

\*2 1ヶ月サブスクリプションを同時に購入する事で、サブスクリプション期間を5年1ヶ月に拡張できます。1ヶ月サブスクリプション期間中のテクニカル サポートは平日9:00-17:30での対応となります。

\*3 HDD/SSDを修理交換する際に、故障部品を弊社に返却することなくお客様にお引渡しするサービスです。HDD/SSD障害と判断された場合にのみ有効なオプションで、ソフトウェア障害等には適用されませんのでご注意ください。また、ホルダーは交換・返却頂く必要がありますのでご了承ください。

## 参考情報



# Arcserve UDP & CRS シリーズのデータ保持期間の考え方 ①



## 保持期間の設定例)

Arcserve UDP が  
日次バックアップ  
を**30日分**保持



CRS シリーズが  
スナップショットを  
**1週間 (7日間) 分**保持



最長で**37日前**のデータ  
をリストアできる。



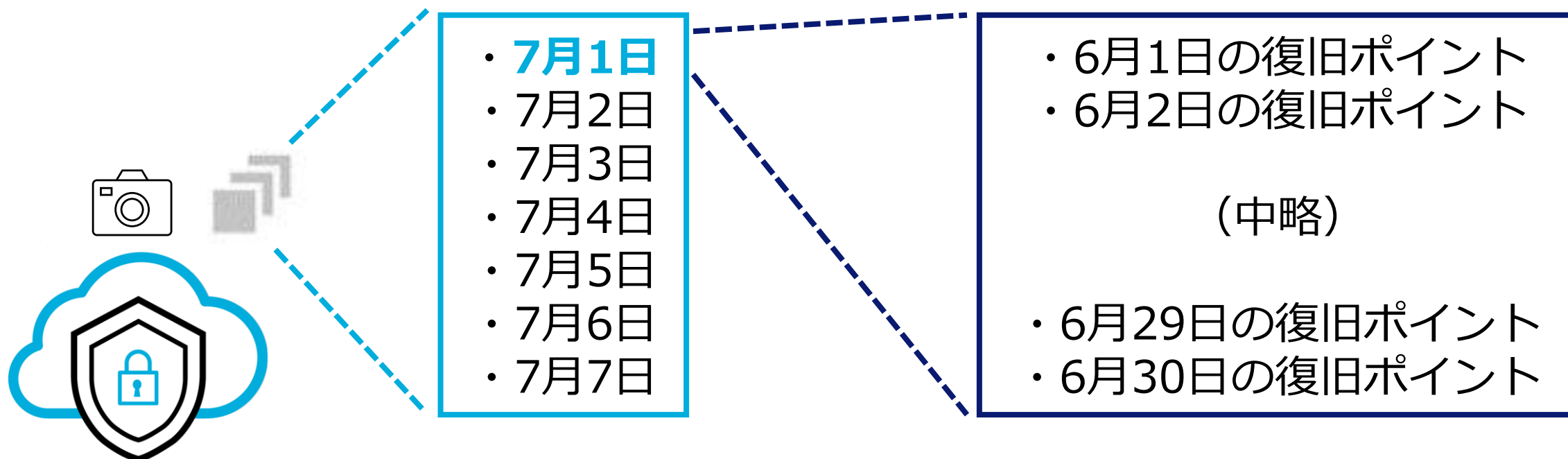
# Arcserve UDP & CRS シリーズのデータ保持期間の考え方 ②



前ページの設定例で7月8日に障害が起きたとすると……

1) CRS シリーズに保持されているデータストアのスナップショットのうち、一番古いものは7月1日。

2) 7月1日のスナップショットを復元すると、そこから30日分の Arcserve UDP の復旧ポイントが参照できる。



# CRS シリーズ データストアのフォルダ構成



RPS の内部



CRS シリーズの内部

CRS シリーズに直接書き込み

データ デスティネーション



データ ストア フォルダ



定期的に同期



データ ストア フォルダ



インデックス デスティネーション



定期的に同期



インデックス デスティネーション



ハッシュ デスティネーション



# CRS シリーズ利用にあたり、RPS に追加が必要なリソース



## RPS の内部

データストア フォルダ



インデックス デスティネーション



ハッシュ デスティネーション

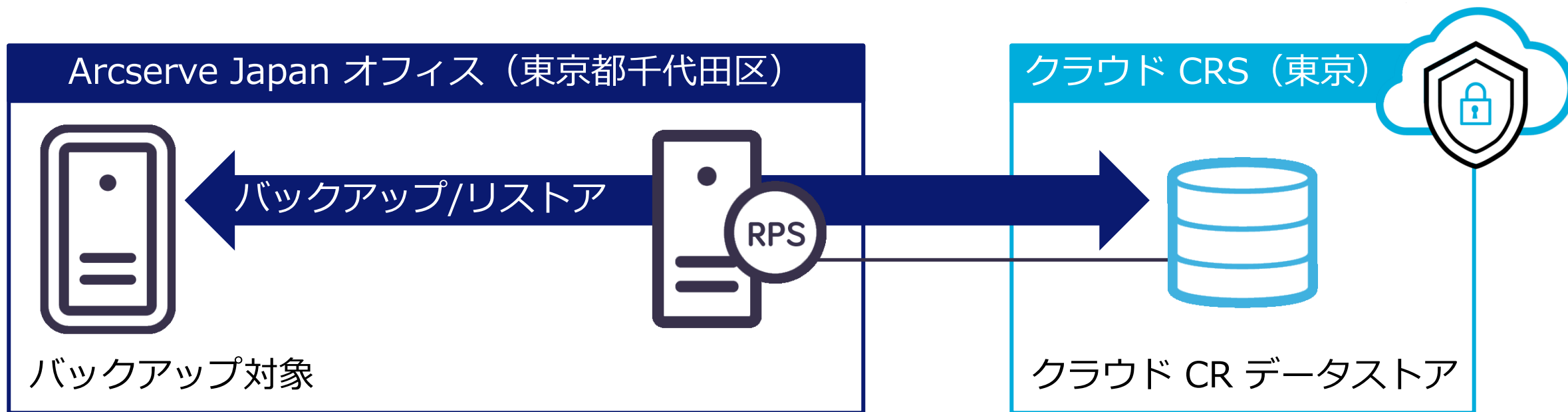


これらの合計で、バックアップ データ量全体の1割のディスク容量が必要。

**RAM モードの場合：**ハッシュ容量に応じた物理メモリとディスクが必要。容量の計算方法は以下資料参照。ブロックサイズは 64 KB。  
(参考資料：[Arcserve UDP 10.x サーバ構成とスペック見積もり方法](#))

**SSD モードの場合：**ハッシュ容量に応じたSSDが必要。ブロックサイズは 64 KB。ハッシュメモリの調整方法は以下記事参照。  
(参考記事：[Arcserve UDP Appliance にデータストアを追加するときの注意点](#))

# クラウド CRS ベンチマーク テスト : 検証環境



- ◆インターネット環境 : 300 Mbps 回線
- ◆Arcserve UDP バージョン : 10.2 (Build: 10.0.645.607)
- ◆バックアップ対象の OS : Windows Server 2025
- ◆RPS 兼 Arcserve UDP コンソールの OS : Windows Server 2019



# クラウド CRS ベンチマーク テスト : 検証結果

検証項目	バックアップ対象データ	所要時間	スループット
システム ボリュームの バックアップ (フル)	36.61 GB	13 分 16 秒	2.76 GB/分
読み取り専用データ ストアから のリストア (ベアメタル復旧)	36.61 GB	26 分 27 秒	1.39 GB/分
データ ボリュームの バックアップ (フル) *1	100 GB (97,859ファイル)	30 分 59 秒	3.27 GB/分
読み取り専用データ ストアから のリストア (ファイル レベル)	100 GB (97,859ファイル)	139 分 31秒	0.72 GB/分
読み取り専用データ ストアから のリストア (ブロック レベル*2)	100 GB (97,859ファイル)	76 分 18 秒	1.28 GB/分

\*1 重複排除/圧縮により 19.79% 削減

\*2 参考記事 : [復旧時間を短縮！Windows ボリュームの「ブロック リストア」](#)

※ このテストはあくまで一例です。お客様環境で同様の性能が出ることを保証するものではありません。



# クラウド CRS ベンチマーク テスト : まとめ

## 購入前のリストア試験をお勧めいたします

- ・ リストア時間が RTO（目標復旧時間）に収まるかがポイント
- ・ バックアップが短時間で終わっても、リストアがそうとは限らない
- ・ リストア時間は RPS との距離の影響を受けるので、実環境での確認が必要

クラウド CRS 30 日間無償トライアル申込ページ :

<https://www.arcserve.com/ja/free-trials/arcserve-cloud-cyber-resilient-storage>

ACS 30 日間無償トライアル申込ページ :

<https://www.arcserve.com/ja/free-trials/arcserve-cloud-storage>

# クラウド CRS と Arcserve UDP Cloud Hybrid との比較

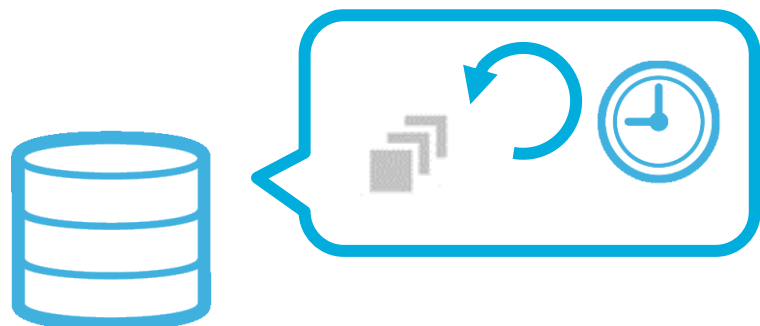


## クラウド CRS



### ランサムウェア対策を重視

- ・イミュータブルなストレージ



(RPS に追加するデータストアを提供)

## Arcserve UDP Cloud Hybrid



### 災害対策を重視

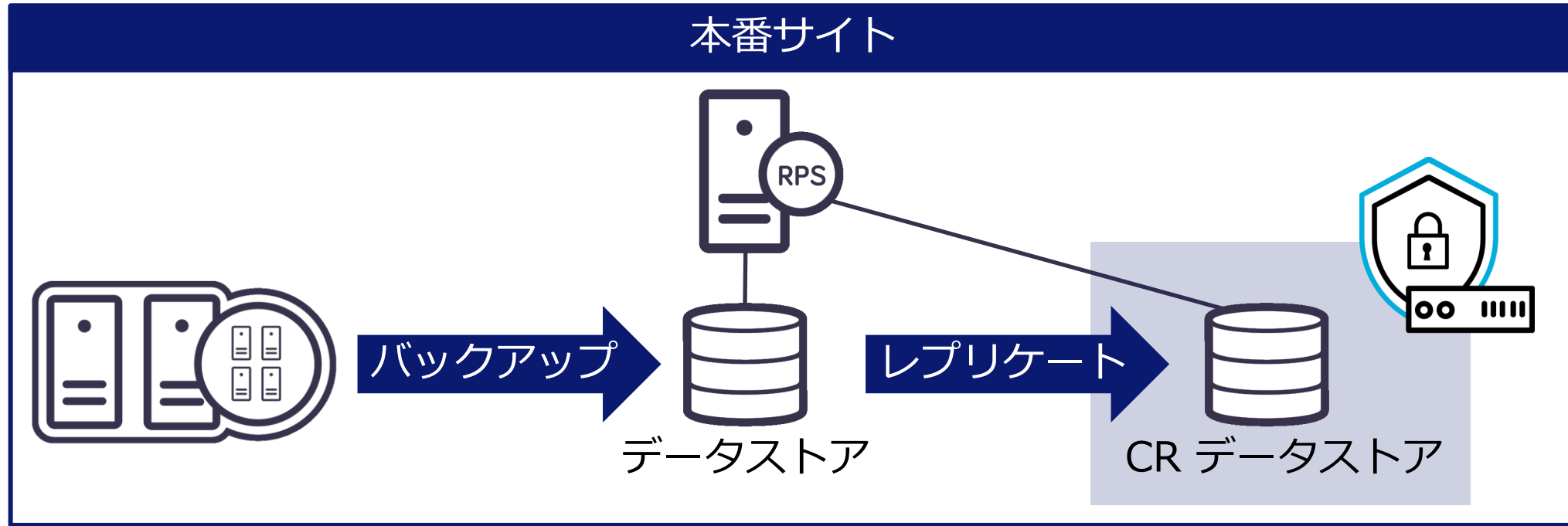
- ・ファイル リストアがすぐできる
- ・クラウド上で代替運用が可能 (DRaaS)
- ・レプリケート/復旧中の回線障害に強い



(RPS + Arcserve UDP コンソールを提供)



# CRS の構成例：既存環境に簡単にランサムウェア対策を追加



✔ Arcserve UDP Appliance を拡張するならこのパターン

# CRS シリーズ ライセンス キーの登録手順



CRS シリーズを使い始める前に、以下の操作が必要です

## クラウド CRS



- 1) ライセンス プログラム証書記載のアカウントで Arcserve Cloud Storage ポータルにログイン
- 2) アクセス キー/シークレット キーを発行
- 3) 2) のキーを使い、Arcserve UDP コンソールにクラウド アカウントを作成

参考 : [クラウド CRS / ACS スタートアップ ガイド](#)

## CRS



- 1) ライセンス プログラム証書記載の25 桁のライセンス キーを Arcserve UDP コンソールに登録 \*1

\*1 トライアルの場合もキー登録が必要です。

参考 : [CRS スタートアップ ガイド](#)

# 導入事例の作成にご協力ください！

arcserve®

Arcserve UDP Appliance 導入事例  
株式会社 丸和運輸機関

「重要サーバのバックアップが取れない」を  
バックアップ専用アプライアンスで解決！  
運用コストは年間437万円削減



## 事例化のメリット

- ✓ 社内外へのアピール
- ✓ ブランド力や信頼性の向上
- ✓ サイバー攻撃に対するけん制

参考：[株式会社丸和運輸機関様 導入事例](#)

# 製品情報とお問い合わせ窓口



Arcserve ポータルサイト : [www.arcserve.com/jp](http://www.arcserve.com/jp)  
カタログセンター (カタログ、技術資料)

<https://www.arcserve.com/ja/jp-resources/catalog-center/>

Arcserve カタログセンター

検索



Arcserve ジャパン ダイレクト (購入前のお問い合わせ)

例 : 「この構成で必要なライセンスを教えてください」、  
「Arcserve UDP はXXXに対応していますか?」、  
「XXXはサポートされますか?」



フリーダイヤル : **0120-410-116**

(平日 9 : 00 ~ 17 : 30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます)

Webフォーム : <https://www.arcserve.com/ja/contact-us>

# arcserve®

**arcserve Japan合同会社**

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105  
神保町三井ビルディング

**購入前のお問い合わせ:**

**Tel: 0120-410-116** (営業時間: 平日 9:00~17:30)

**E-mail: [JapanDirect@arcserve.com](mailto:JapanDirect@arcserve.com)**

**Webフォーム: [お問い合わせフォーム](#)**

[arcserve/ja](https://arcserve.com/ja)   

This document could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein. These changes may be incorporated in new editions of this document. Arcserve may make improvements in or changes to the content described in this document at any time.

© 2026 Arcserve. All rights reserved. All Arcserve marks referenced in this presentation are trademarks or registered trademarks of Arcserve in the United States. All third party trademarks are the property of their respective owners.